登壇者プロフィール

“Asian Politics of the Rohingya Crisis”

Noemi Lanna (University of Naples “L’Orientale”)

ナポリ東洋大学准教授。
専門は、国際関係論、日本近現代史。
著書に、K. Sakai & N. Lanna (ed.), *Migration in Asia. A Multi-level Analysis*, Routledge, London and New York, 2022 など。

“The EU Approach on Migration: Policies and Practices in Recent Crisis Situations”

堀井 里子（国際教養大学）

東北大学文学部卒業。在メキシコ日本大使館にて勤務（派遣員制度）、一橋大学国際・公共政策大学院（国際公共政策学修士）、英国・オックスフォード大学（強制移住学修士）を経て英国・サセックス大学（政治学博士）修了。2013 年より国際教養大学に勤務。現在、同大国際教養学部グローバル・スタディズ領域准教授。研究関心は、欧州連合（EU）の移民、難民庇護、国境政策および同政策分野に関する非国家アクターの役割。

Michael Reiterer (EU-Ambassador Ret./ Kobe University)

ブリュッセル・ガバナンス・スクール安全保障・外交・戦略センター特別教授。インスブルック大学にて法学及び国際政治学を修める。オーストリア外務省を経て、欧州委員会の対外関係総局および改組後の欧州対外行動庁（外務省に相当）においてアジア欧州会合担当参事官、駐日EU代表部公使などを歴任。駐韓EU代表部大使を最後に退官後、EUの外交政策およびアジアとの関係（特に日本と韓国）、地域間主義、安全保障問題、新しい外交形態、移民問題、人権問題などに焦点をあて研究を進めている。